

一般

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務事業名	花輪線利用促進協議会参画事業			事業コード	0094
担当課等	所属名	建設部 交通政策課	担当係名		
	課長名	建設部 交通政策課	担当者名	杉田 一盛	電話番号

1. 事務事業の基本情報

総合計画体系	施策の柱	快適な都市機能	コード 7	施策	都市活動を支える交通環境の構築	コード 8
	基本事業	公共交通機関の利便性向上と利用促進	コード 2	関連予算 費目名	一般会計 8款 4項 9目 鉄道関連事務(001-02)	
	特記事項					
事業期間	<input type="radio"/> 単年度 <input checked="" type="radio"/> 単年度繰返 <input type="radio"/> 期間限定複数年度			⇒(開始年度 昭和49年度~)		
事務事業の概要	JR東日本花輪線の整備促進により沿線地域の活性化に取り組む団体に参画し、利用促進のための啓発活動を行う。 主な活動:会議の開催, 利用促進のための啓発活動					
根拠法令等	花輪線利用促進協議会規約					
この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)						
JR花輪線開通直後は、鉄道事業者に対してこの路線の複線化・電線化の要望活動を行うため、沿線市町村等の参加により昭和49年に規約を定め活動を始めた。その後、利用客が減少、鉄道事業が民営化及び旅客鉄道事業の廃止が許可制から届出制になったことにより、この路線の廃止が危惧されたことから、主な活動を路線継続のための利用促進に変更して、事業を展開してきた。平成21年11月には、これまでの同盟会を解散し、新たに「花輪線利用促進協議会」を設立し、引き続き、花輪線の利用促進を図るための事業を行っている。						
この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか						
市民、議会等から直接の意見・要望は出されていないが、盛岡市以外の参画自治体の住民・議会からは、運行本数の増加、運行速度の高速化などを求める要望が出されている。						
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどう変化したか。今後の見通しはどうか						
<ul style="list-style-type: none"> 平成14年6月に、鉄道事業者であるJR東日本が完全民営化された。 平成14年12月に、東北新幹線盛岡・八戸間が開業したことに伴い、並行在来線が第三セクターのIGRいわて銀河鉄道(株)に移管され、盛岡駅好摩駅間の運賃が値上げされ利用者の負担が大きくなった。 平成18年6月に、路線の存続を図るため、会の名称を「JR東日本花輪線整備・利用促進期成同盟会」と改め、大幅な増加を見込むのが難しい通勤通学利用者だけでなく、観光客も視野に入れた利用客層の拡大を働きかけることとした。 平成21年11月には、これまでの同盟会を解散し、沿線市町村、商工団体を主体としたこれまでの構成団体に観光関係団体、鉄道事業者を加えた新組織「花輪線利用促進協議会」を設立した。 平成22年度に東北新幹線新青森駅まで延伸された。 平成23年度に花輪線が全線開通してから80周年を迎えることから記念イベントを予定している。 						

2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を、何を対象としているのか)	⇒	②対象指標 (対象の大きさを示す指標)	A. 団体参画自治体内人口	単位	人
			B. 鉄道会社数	単位	社
			C.	単位	
③手段 (事務事業の内容、やり方、手順)	⇒	④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)	A. 会議等開催回数	単位	回
			B. 啓発活動開催回数	単位	回
			C. 提案活動の実施回数	単位	回
⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか)	⇒	⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標)	A. 1日あたり列車運行本数 【指標の性格: ● 上げる ○ 下げる ○ 維持する】	単位	本
			B. 利用者数 【指標の性格: ● 上げる ○ 下げる ○ 維持する】	単位	人
			C. 花輪線の存続 【指標の性格: ○ 上げる ○ 下げる ● 維持する】	単位	路線
⑦結果 (上位基本事業の意図、上位の基本事業にどのように貢献するか)	⇒	⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標)	1日当たりバス利用者数(単位:人) 1日当たり鉄道利用者数(単位:人)		

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	団体参画自治体内人口	人	580,800	496,359	496,359	495,930	495,930		年度
対象 指標B	鉄道会社数	社	21	1	1	1	1		年度
対象 指標C									年度
活動 指標A	会議等開催回数	回	2	3	3	3	3		年度
活動 指標B	啓発活動開催回数	回	0	0	1	0	1		年度
活動 指標C	提案活動の実施回数	回	0	0	1	0	1		年度
成果 指標A	1日あたり列車運行本数	本	21	21	21	17	17		年度
成果 指標B	利用者数	人	704,251	692,026	未定	未確定	未定		年度
成果 指標C	花輪線の存続	路線	1	1	1	1	1		年度

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	*****
事業費	A	千円	96	103	109	103	172		*****
財源 内訳	④国	千円							*****
	⑤県	千円							*****
	⑥地方債	千円							*****
	⑦一般財源	千円	96	103	109	103	172	0	*****
	⑧その他	千円							*****
	合 計 (④~⑧) (=A)	千円	96	103	109	103	172		*****
	延べ業務時間数	時間	120	120	120	20	40		*****
	職員人件費 (B) (臨時職員賃金は、事務費に含む)	千円	480	480	480	80	160	0	*****
	トータルコスト (A) + (B)	千円	576	583	589	183	332	0	*****

3. 事務事業の評価(See)

必要性評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 結びついている	理由: JR東日本花輪線の存続は、盛岡広域圏の総合交通網の構築に必要である。
	② 公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 妥当である	理由: 交通社会資本である鉄道の存続は行政の責任で行うべきものである。 〴〵「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他
	③ 対象の妥当性 対象の設定は現状のままでもいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくてよいですか？	<input checked="" type="radio"/> 拡大または絞る余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 現状で妥当である	理由: JR東日本花輪線沿線自治体の住民の数が減少していることから、沿線住民だけの利用者数には上限がある。観光客などの沿線自治体の住民以外の利用者数を増やすことにより活性化を図ることが必要である。 〴〵「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input type="radio"/> その他
	④ 意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？	<input type="radio"/> 拡大または絞ることができる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	理由: 利用者数の増加が鉄道機能の充実を促し、鉄道機能の魅力の充実が利用者数の増加につながる相関関係にある。 〴〵「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input checked="" type="radio"/> その他
有効性評価	⑤ 成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 向上余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 向上余地がない	その内容: JR東日本花輪線沿線にある観光資源を生かし、観光需要の掘り起こしを行い利用者の増加を見込める。 ・IGRいわて銀河鉄道線との連携・利便性を向上させ生活路線としての利用を見込める。
	⑥ 廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？	<input type="radio"/> 影響がない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 影響がある	その内容: 協議会による啓発、JR東日本への提案などが花輪線の利用促進を支えている。
	⑦ 類似事務事業との関係 類似の事務事業(国、県、市の内部、民間)はありますか？	<input type="radio"/> 類似事業がある <input checked="" type="radio"/> 類似事業がない	事業名: _____ ※類似事業がある場合、その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか？ 統廃合・連携検討 <input type="radio"/> できる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> できない 理由: _____
効率性評価	⑧ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できる余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない	理由: 現在の活動内容は、必要最低限である。
	⑨ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない	理由: 現在の業務時間が、必要最小限である。
公平性評価	⑩ 受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない	理由: 交通社会資本の確保は、受益者負担を求める性格のものではないと考える。
	⑪ 費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない	理由: 鉄道利用者は、適正な費用(運賃)負担をしている。

4. 事務事業の改革案(Plan)

改革／改善方向	<p>①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1, 代替案その2とすること 平成22年度の東北新幹線の新青森駅延伸を契機と捉え、対象を観光客などの沿線自治体以外の利用者にも拡大し、花輪線の観光利用促進に努める。</p> <p>②改革, 改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか? それをどう克服していきますか? (関連部門や全庁的な調整の必要性, トップへの要望も含む) 協議会の目的の一つである観光客の利用促進に取組むためにも、庁内関係課のより積極的な協議会への参加が不可欠である。</p>
---------	--

5. 課長意見

一次評価	<p>(1)一次評価者としての評価結果</p> <p>① 必要性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ② 有効性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ③ 効率性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ④ 公平性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり :</p>	<p>(2)全体総括(振り返り, 反省点)</p> <p>昨年度は、改善案に基づき観光課とともに取り組みが出来たことは評価できる。</p>										
今後の方向性と改革改善案	<p>(3)今後の事務の方向性(改革改善案)</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 終了</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 継続</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">→</td> <td><input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 廃止</td> <td><input type="checkbox"/> 休止</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td><input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携</td> </tr> </table>		<input type="checkbox"/> 終了	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	→	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止	<input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う			<input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携
<input type="checkbox"/> 終了	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	→	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)									
<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止		<input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う									
			<input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携									
												
<p>方向付けの理由と改革改善の内容</p> <p>協議会における活性化策の方向性を踏まえ、観光課との役割分担を明確化することにより、取り組みの重複を避け、効率的な事業展開を行う。</p>												